

わが家の

防災マニュアル

地震・災害・風水害から身を守るために

いざという時のために…

●災害に備える対策（屋外・室内）●地震の時に（地震10ヶ条）●土石流災害に注意（崖崩れ・山崩れ）●日頃の備えと避難の心得●非常持出品と備蓄品

恵那市

日頃から十分な対策を！

防災マップ

大井町・長島町
東野・武並町・笠置町
中野方町・飯地町

地域用

地図の利用にあたって注意事項

この図面に示されている危険箇所は、一定の地条件と保全対象（人家や公共施設）を有する箇所であり、具体的には次に示す条件を満たすものだけを掲載しています。したがって、ここに図示された以外の深流や山崩れ斜面で土石流やがけ崩れの生ずる危険があることを知ってください。

土石流危険深流及び危険区域

「土石流危険深流」とは、深床勾配が1/30（2°）以上であり、土石流が発生した場合被害が予想される人家（又は公共施設）がある深流です。「危険区域」は、想定された最大規模の土石流が発生した場合、土砂の氾濫が予想される区域です。

地すべり危険箇所及び防止区域

空中写真の判読や災害調査の調査、現地調査によって、地すべりの発生する恐れがあると判断された箇所を「地すべり危険箇所」といいます。地すべり危険箇所のうち、法律で指定を受けたものを「地すべり防止区域」と呼びます。

急傾斜地崩壊危険箇所及び区域（がけ崩れ）

勾配30°以上、高さ5m以上の急傾斜地に面する人家あるいは官公署、学校、病院、旅館等の公共的建築物が、がけ崩れの被害を受ける危険のあるとき、急傾斜地および隣接地を「急傾斜地崩壊危険箇所」といいます。急傾斜地崩壊危険箇所のうち、法律の指定を受けた場所を「急傾斜地崩壊危険区域」と呼んで区別しています。

土石流災害危険箇所とは

土・砂などが集中豪雨などの大量の水とまじり合って、津流のように流れ出てくるのが土石流です。流れの先端部に大きな石があることが多いので破壊力も大きく、またスピードも速いため、悲惨な災害をもたらします。このような被害をもたらす恐れのある深流を「土石流危険深流」といいます。

地すべり危険箇所

粘土などのすべりやすい層に地下水が作用し、土側の地面がそっくりすべり落ちるのが「地すべり」です。すべり落ちるスピードはゆっくりですが、広い範囲にわたって地面が動くため、家や道路や田畑などが広範囲で被害を受けます。このような被害が生じる恐れのある箇所を「地すべり危険箇所」といいます。

急傾斜地崩壊危険箇所

雨により地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、斜面が突然崩れ落ちるのが「がけ崩れ（急傾斜地崩壊）」です。崩れ落ちるスピードが速いため、逃げ遅れる人が多く、死者の割合も高くなります。地盤が原因で起きる場合もあります。このような被害が人家等に生じる恐れのある箇所を、「急傾斜地崩壊危険箇所」といいます。

こんな前ぶれに注意しよう!!

地すべり●沢や井戸の水が濁る●地面にひび割れができる●斜面から水がふき出す●家や擁壁に亀裂が入る●家や擁壁、樹木や電柱が傾く

土石流●山鳴りがする●急に川の流れが滞り流木が混ざっている●雨が降り続けているのに川の水位が下がる●腐った土の臭いがする

がけ崩れ●がけに割れ目が見える●がけから水が湧き出ている●がけから小石がぼろぼろと落ちてくる●がけから木の根が切れる等の音がある

山鳴りがする●地面に亀裂ができる●雨が降り続けているのに川の水位が下がる●川の流れが滞り流木が混ざりはじめる●斜面から水が吹き出す●小石がバラバラ落ちてくる●がけに割れ目ができる●がけから水が湧き出す

地震・風水害対策 わが家の防災チェック

屋外編

地震や台風・豪雨には油断せず、日頃から十分対策を立てておきましょう。

雨どい雨戸●雨どいに落ち葉や土砂が詰まっていなければ、雨水はスムーズに流れ、雨どいから排水されます。●雨戸は、雨の降る前に閉めておきましょう。

アンテナ●不安定な屋根の上のアンテナは、しっかりと固定しておきましょう。

屋根●瓦のひび、割れ、ずれ、はがれは、早急に修理してください。

外壁●モルタルの壁に亀裂は、早急に補修してください。

窓ガラス●ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。また強風による飛来物などに備えて、外側から板などで固定してください。

ベランダ●鉄筋や物干し竿など飛散の危険が強い物は室内へ。

室内編

大地震では、大きくて重い家具は、時に凶器に変身することもあります。家具の配置を見直して家の中に安全なスペースをつくるとともに、全ての家具をしっかり固定しておきましょう。

支え棒●高い家具は、支え棒で固定してください。

照明器具●照明器具は、1メートルの高さに固定してください。

エアコン●エアコンは、落下しないよう、安全な場所に固定してください。

窓ガラス●窓ガラスは、落下防止フィルムを貼ってください。

カーテン●カーテンは、落下防止フィルムを貼ってください。

金具●二段重ね式の家具は、必ず金具でしっかりと固定してください。

冷蔵庫●冷蔵庫は、落下しないよう、安全な場所に固定してください。

テレビ●テレビは、落下防止フィルムを貼ってください。

わが家の防災メモ

避難場所

風水害等における避難所
地震・火災時避難場所
家族が離ればなれになった時の集合場所

家族等の連絡先

氏名	電話(会社・学校)	住所	生年月日	血液型

緊急ダイヤル

恵那市役所 0573-26-2111 恵那警察署 0573-26-0110

NTT 災害用伝言ダイヤル 170 のかけ方

録音方法 170-0 (0000) 00-0000 伝言を入れる (10 秒以内)

再生方法 170-2 (0000) 00-0000 伝言を聞く

砂防(河川)情報

インターネットで砂防(河川)情報がリアルタイムでどなたでもご覧いただけます。

岐阜県総合防災ポータルサイト

インターネット http://www.bousai.pref.gifu.jp/g

土砂災害警戒情報

インターネット http://www.sabo.pref.gifu.jp/ http://www.sabo.pref.gifu.jp/h

川の防災情報

インターネット http://www.kasen.pref.gifu.jp/ http://www.kasen.pref.gifu.jp/h

洪水の危険あり！水かさが増えています。

インターネットで詳しい情報を調べましょう。

大雨になりそう！避難の準備をしよう。

雨が降り出したら、速に避難場所へ避難しよう。

知り合いの家は大丈夫か？

※携帯端末（i-mode、Ezweb、J-Sky）とも同じ URL にて表示可能です。機種によっては表示できない場合があります。

日頃の備えと早めの避難

突然襲う土砂災害。しかし土砂災害にもいくつかの前兆現象があります。それらの前ぶれを理解し、日頃から備えましょう。土砂災害から身を守るためには、私たち一人ひとりのこころがけが大切です。情報に気を配り、いざというときに備えましょう。「日頃の備え」と「早めの避難」が合点こばります。

日頃の備え

危険な箇所を調べておこう

危険区域は、最寄りの建設事務所、市町村役場等で見ることが出来ます。日頃からどこが危険か、避難場所はどこか、確認しておきましょう。

雨に注意

土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間以上20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら、十分な注意が必要です。

情報に気を配る

気象予報などさまざまな情報に気を配り、近所の方々などとも連絡をとりあひましょう。避難する準備も忘れずに。

早めの避難

事前の準備

●非常持出品の用意●避難場所を確認●携帯電話やラジオなどの準備●避難の順序を決める●避難時の連絡先を確認●適切な危険な場所がないか確認

避難前の注意

●気象情報をよく確認●懐中電灯、雨具の用意●避難は早めに●行動しやすい服装を●複数で行動を

避難の途中

●絶対に深流を渡らない●深流と直角の方向に避難する●危険な所（崖、すべり、洪水等）は避ける●誘導員の指示に従い、勝手な行動は慎む

避難の心得

1 避難の呼びかけに注意

危険が迫った時には、テレビ、ラジオの気象情報、市役所からの避難情報に注意しましょう。広報や同報無線からの案内は、雨風の音で聞こえない場合がありますので注意しましょう。

2 浸水してからの避難は危険

浸水が始まらないうちに避難しましょう。動きやすい格好がよいです。また、2人以上で行動をしましょう。浸水した道路では、マンホール内に落ちたり用水に流されたりすることがあり、危険がいっぱいです。

3 万が一、逃げおくれたら

避難可能な水位は低く下まです。流れる水の中は、水位が高くなるまで足がとられやすくなります。万が一、避難が遅れた時には近くの丈夫な建物（三階以上）に逃げましょう。

4 早めの避難を

夜間、雨の中を歩ける速度は1時間で1.5～2.0kmが目安です。このため、お年寄りや小さなお子さん、身体の不自由な方などのいらいしや、ご家庭では、特に早めの避難が必要です。身近所で助け合って避難しましょう。

5 土砂災害にも注意

山地の近くの住宅では、土砂災害にも注意しましょう。避難のとき、山沿いの道路を歩かなければならないときも注意しましょう。

6 車での避難は控えて

車での避難は交通渋滞を招いたり、道路冠水などで動けなくなったりして緊急車両の通行の妨げとなります。原則として、徒歩で避難しましょう。

非常持出品と備蓄品

いざというときにすぐに持ちだせるように、日頃から準備・点検しておきましょう。

非常持出品

避難するとき、まず最初に持ち出すべき品です。

貴重品

現金、預貯金通帳、印かん、運転免許、権利証、健康保険証など。

携帯ラジオ

予備電池は多めに用意。

懐中電灯

できれば1人1つ。予備電池も忘れずに。

非常食品

カンパン、缶詰、栄養補助食品など調理せずにそのまま食べられる物（ドライフーズなど）。ミネラルウォーター、水筒、プラスチック製の皿やコップ、その他食器や包丁、缶詰など。乳幼児・お年寄り・病人用、缶詰やびん詰の罐頭食品、乾パン、レトルトのおかずなどにも必要に応じて用意しておきましょう。

応急医薬品

ばんそうこう、創薬、包帯、青膏、鎮痛剤、解熱剤、目薬、消毒薬など。持病のある人は常備薬も忘れずに。

その他の生活用品

下着、上着、靴下などの衣類、歯ブラシ、タオル、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、雨具、ライター、ビニール袋、生理用品、紙おむつ、など。

非常備蓄品

非常備蓄品は、災害復旧までの数日間（最低3日間）を自足できるように準備しておくものです。

飲料水

飲料水は1人1日3リットルを目安に。缶入りやペットボトルのミネラルウォーターがよい。ペットボトルよりも水の飲料水のほうが長持ちします。

非常食品

カンパン、缶詰やレトルトのおかず、栄養補助食品、アルファ米、レトルトごはん、ドライフーズ、インスタント食品、梅干し、チョコレート・アメなどの菓子類、調味料など。

燃料

ガスコンロ、携帯コンロ、固形燃料など。ガスボンベのストックも忘れずに。

その他の生活用品

生活用水（乳児に注意して風呂や洗濯機に備蓄。風呂前はやかんやポットにも水を入れておく）、毛布、寝袋、洗面用具、バスタブ、タオル、トイレ用紙、使い捨てカイロ、ろうそく、さし、ロープ、バール、スコップなどの工具、ドライシャンプー、新聞紙（燃料・防寒用）、ビニールシート（敷物・雨よけ）、布製ガムテープ（荷物の整理・止む・ガラスの補修）、キッチンラップ（止む・汚れた皿にかけで使う）、ペットフード（ペットがいる場合）、自転車など。

非常持出品は定期的に点検を!

非常持出品は、使用するときと定期的に点検をします。とくに食品や飲料水の賞味期限は定期的にチェックし、賞味期限が過ぎたものから入れ替えておきましょう。